

あらゆるビジネスシーンで活躍の会員の皆様をご紹介します。

ビジネス×インタビュー

社団法人

岐阜ファッション産業連合会

事務局 課長 田川 実さん



アパレル産地「岐阜」の誕生

戦後間もない頃、満州からの引き揚げ者が中心となって、国鉄岐阜駅前にブラック小屋を作り、そこで衣料品を売り始めました。もちろん商売としてではなく、生きるためです。これがハルピン街と呼ばれ、その噂を聞きつけた人々が衣料品を手に入れるために次から次へと集まりました。その後、地方から布を仕入れて服を作る業者もあらわれ、全国に岐阜の既製服が知れ渡り、駅前に広大な問屋街を形成するようになりました。昭和26年、当連合会の前身である岐阜繊維問屋町連合会が発足し、より良い商品や店づくりが行われ、問屋街はますます発展していきました。

昭和62年に現在の組織となった後は、グローバルな視野で企画提案型のモノづくりを推進し、「ファッション都市「岐阜」」を目指してきました。メンズ・レディス・子供服などの衣料品からテキスタイル・服飾附属資材に至るまで、あらゆる分野の総合集積地という岐

岐阜のアパレルを世界に

阜のファッション産業の特性を活かし、「世界のファッション工房GIFU」として全世界に向けて情報発信をしています。

消費者の声を採り入れる

当連合会では、より消費者ニーズに沿った製品を提供するための環境づくりと海外展開を見据えた販路開拓、販売促進に努めるため、様々な事業を展開しています。イベント事業として10月には岐阜ファッションフェア（GFF）、3月にはア・ミューズ岐阜を開催しています。49年の歴史を誇る総合展示会であるGFFでは、一般の方にコーディネートを楽しんでいただく「ファッション・コーディネート」を開催しており、消費者が岐阜アパレルに気軽に触れられるとともに、メーカーがその声を直接聞くことができる貴重な場となっています。今年で19回目を迎えたア・ミューズ岐阜は春夏シーズンの前売りフェアとして、最新海外トレンド情報の発信、フロアショー

の開催など話題のファッションを提案しています。こうしたイベントを行うことで消費者ニーズを的確にとらえ、それに対して素早く対応できるのが岐阜アパレルの特色であると思います。

また、岐阜アパレルのデザイン・品質をより一層向上させるため、著名な講師を招聘し

新たなファッション基地を目指して

た最新トレンドセミナーや、国際化の進展や市場ニーズ、経済環境の変化に対応するための経営セミナー等を開催し、岐阜アパレルを担う人材の養成にも力を入れています。

岐阜は東京、大阪と並ぶ国内3大アパレル産地のひとつとして成長してきましたが、会員数もピーク時と比較すると減少してきています。しかし、近年の再開発事業によって、岐阜駅前が活性化してきました。岐阜シティ・タワー43に続いて37階建ての高層ビルの建設も始まり、完成後には多くのアパレル業者が入居する予定となっています。こうした駅前の賑わいは、問屋街及び岐阜のアパレル産業に大きな活力を与えてくれるのではないかと期待しています。これからは衣料品を生産して販売するだけでなく、岐阜のファッションを世界に向けて発信するとともに、世界各地の情報が集まってくるファッションの集積地を目指し、かつての問屋街の賑わいを取り戻していきたいと思っています。



衣料品の低価格化競争が激化していますが、岐阜のアパレルは低価格化に流されることなく、より高品質なものを提供するように心掛けています。

今月の会社データ

社団法人 岐阜ファッション産業連合会

住所 岐阜市長住町5-7-5
電話 058-265-1366
事業内容 繊維製品産業振興、販路開拓、販売促進等
設立 昭和26年